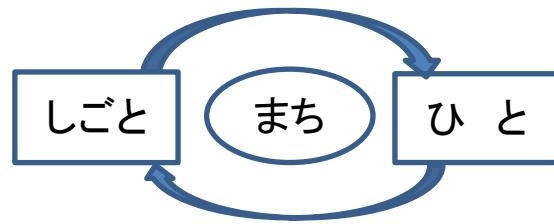


### まち・ひと・しごと創生の基本的な考え方

地方創生の命題として、「人口減少」と「地域経済縮小」を克服しなければならない。そのため、「しごと」をつくり、「ひと」を増やし、それらを好循環させ、その好循環を支える「まち」を活性化させる。



最大の地域資源である市民力と美濃和紙を核とした伝統文化を活かし、「美濃市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定

### 基本目標

- 「美濃和紙」伝承
- 「地域活力」発展・創造
- 「地域居住」増加・継続
- 「子育て環境」改革
- 「健康年齢」向上
- 「自然環境」回帰

6つの基本目標を設定し、これらを好循環させることにより、5年後の総人口を21,000人で維持するまちづくり政策を行う。

・美濃市の総合戦略は、美濃市の特色・地域資源である「市民力」と、平成26年にユネスコ無形文化遺産に登録された「本美濃紙」を象徴とする「美濃和紙」を活かして策定。  
・なお、併せて、美濃市第5次総合計画を見直し、長期人口ビジョンも作成。

・議会や住民代表、産学官金労言からの意見を十分に検討。  
・目標ごとに成果目標数値・重要業績評価指標（KPI）を設定し、PDCAサイクルで施策の効果を検証。  
・県や近隣市町村などと、地域間の新たな広域連携を推進。



### 美濃和紙伝承

本美濃紙のユネスコ無形文化遺産への登録を契機に、国内外へ情報発信し、後継者を育成し、関連産業を振興し、観光誘客を増進し、1000年の後も手漉和紙技術を伝える。  
産業・観光・教育・定住促進、文化振興のほか、あらゆる面で美濃市の活力につなげる。



### 地域活力発展創造

本美濃紙を活かした製紙業や観光産業など既存の産業・企業の振興、東海北陸自動車道と2020年度全線開通を目指す東海環状自動車道が交わる広域交通の要所である地の利を活かした県や隣市との共同工業団地開発による企業誘致など、若い世代が安心して働ける雇用の場を創出する。

### 自然環境回帰

豊かな日本の原風景的自然環境を取り戻すため、低炭素・循環型・自然共生型の統合的な社会の実現を目指す。  
本美濃紙を育んだ川の魅力を一層高めていくため、美しい景観づくりや河川環境美化活動を市民との協働により推進する。

### 健康年齢向上

多くの人がいつまでも現役でいられることを目指し、自分の健康は自分で守り、つくることができるよう、予防、早期発見・早期治療を進め、健診や保健指導を充実し、地域で日常的に支え合うことができる交流の場をつくり、市民総参加で健康づくりを進める。



### 子育て環境改革

妊婦検診や乳幼児等の健診・健康相談、留守家庭児童教室の充実、地域子育て支援センターの整備などにより、子育てと仕事を両立しながらも、地域全体で安心して妊娠、出産、育児ができる環境をつくる。  
木育や、市独自の教員の人的配置を行い、より良い教育環境もつくる。

### 地域居住増加継続

優良宅地の供給、賃貸共同住宅の建築奨励、新婚世帯に対する家賃支援を充実し、空き家活用、縁側コミュニティ制度などを進め、移住・定住の促進を図る。ふるさとに住み続けることができるよう、住民の互助精神を醸成し、集落を支援し、また、交通弱者対策を進め、市内の利便性を向上する。



## 美濃市の活性化

くらしを  
まもる

しごとを  
つくる

ひとを  
そだてる

ひとを  
よぶ